

史料群番号 38

史料群名	あらいたろう 荒井太郎家文書	旧所蔵者	荒井太郎
探訪時住所	千葉県市原郡千種村今津朝山		
現在の住所	千葉県市原市今津朝山		
探訪年月	昭和26（1951）年8月		
史料の年代	延享1（1744）年～明治6（1873）年	史料の総点数	82点
年代の内訳	近世 70点/近代 12点	筆写稿本	なし
既刊行目録	「昭和五十年三月 水産庁水産資料館所蔵古文書目録- 水産庁水産資料館・日本常民文化研究所」「平成十七年 水産総合研究センター所蔵古文書目録-千葉県（房総半島沿岸地域）関係史料- 水産総合研究センター・神奈川大学日本常民文化研究所」		

収蔵にいたる経緯

探訪に関する書類はないが、探訪時の整理に用いられたと見られる「祭魚洞書屋収蔵古文書」の封筒に昭和26年8月13日の日付と「寄贈荒井太郎氏 第二回調査」と書かれていた。水産資料館の昭和50年の目録に掲載されている史料と、現在中央水産研究所に所蔵されている史料の内容は一致し、その間の史料の散逸、移動は生じていなかったと考えられる。

史料群の概要

探訪地の今津朝山（いまづあさやま）は、近世は上総国市原郡今津朝山村で、明治22年に千種村に含まれ、昭和30年に五井町、昭和38年に市原市となった。
史料は近世のものが8割を占める。内容を見ると、荒井家に伝来したと考えられる史料はほとんどなく、大半が野崎治左衛門家に関する史料である。これは、旧所有者の父親が夫婦養子となって野崎家に入り、その後荒井の姓を名乗ったためと考えられる。近世の今津朝山村は旗本3氏の相給で、そのことを伝える史料が残されており、村政に関する史料が多い。

なお、本史料群の詳細については「水産総合研究センター所蔵古文書目録」を参照していただきたい。

